



「大気-海洋相互作用研究連絡会」が発足

5月22日の気象学会理事会において、「大気-海洋相互作用研究連絡会」の設立が承認され、正式に発足しました。設立の趣旨や活動の内容については、下記の設立に関する申込書に述べられている通りです。

既に5月21日に非公式に第1回の研究会を開催し(「天

気」4月号参照)、約50名が参加し、J-COAREの実施を目指して活発な議論を行いました。今後も随時研究会を開催する予定です。大気-海洋相互作用に関心のある方の積極的な参加をお願い致します。

(文責 藤谷)

記

1991年5月21日

日本気象学会理事会殿

「大気-海洋相互作用研究連絡会」設立に関する申込書

1. 設立の趣旨

大気と海洋、それぞれについても未解決の分野が数多く残されていますが、大気と海洋の相互作用については、その実態はほとんど解明されていないのが現状です。

最近、気候変動に関する研究が活発になるにつれて、大気-海洋相互作用を解明することが、気候変動の本質を理解する上で不可欠であることが明らかとなってきました。

大気・海洋の変動とその相互作用を理解することにより、大気-海洋系の長期予測可能性を高めることを目的とした TOGA (熱帯海洋全球大気変動研究) 計画は、1985年より10年間の国際共同研究として実施されてきております。国内においても、気象・海洋両分野の研究者が、大気-海洋相互作用の理解に向けて研究をすすめ、これまでに様々な国際的に貢献する研究成果を上げてきています。また、[1992年から1993年にかけて、TOGA計画の後半の中心的なプロジェクトである COARE (西太平洋大気海洋相互作用研究) 計画が、西太平洋熱帯海域で国際共同研究として実施されることになっております。この計画の中心的なテーマは、気候システムを大気-海洋-陸面の結合系と考え、特に大気-海洋系を様々な時間・空間スケールに分けて研究しようというものであります。この計画に対する日本の果たす役割は非常に大きいものであります。COARE計画を推進し、さらに気象学・海洋学の何れの分野も関係する大気-海洋相互作用の研究水準を今後一層高めていくためには、既

存分野を越え、既存組織を越えた、研究交流・情報交換の場が必要です。

私たち世話人一同は、貴学会が時宜を得た研究連絡会制を発足されたことに敬意を表すとともに、以上述べた趣旨に基づいて「大気-海洋相互作用研究連絡会」を設立致したく、ここに申込むものです。

2. 活動の内容

- (1) 年に1~2回の研究会・交流会を行う。
- (2) 研究会などの活動内容を「天気」誌上に報告する。

3. 世話人体制

代表世話人	住	明正：東京大学理学部
世話人	竹内	謙介：北海道大学理学部
	花輪	公雄：東北大学理学部
	響田	邦夫：東京大学海洋研究所
	石田	廣史：神戸商船大学
	山形	俊男：九州大学応用力学研究所
	和方	吉信：東海大学海洋学部
	高藪	縁：国立環境研究所
	新田	勲：気象大学校
	時岡	達志：気象庁気象研究所
	藤谷徳之助	：気象庁気象研究所
	中澤	哲夫：気象庁気象研究所
事務局担当世話人	藤谷徳之助	：気象庁気象研究所
	中澤	哲夫：気象庁気象研究所

1991年度（第13回）沖縄研究奨励賞推薦応募について

- ・ 沖縄研究奨励賞（以下「奨励賞」という。）は、奨励賞規定に基づき実施します。
- ・ 推薦候補者（以下「候補者」という。）の年齢は、原則として50歳以下（7月15日現在）とします。
- ・ 候補者がグループの場合は、1グループを1名とみなします。なお、グループの代表者（1人）を決めて下さい。
- ・ 候補者の国籍や出身地などは問いません。
- ・ 対象となる研究は継続中のものでも結構です。
- ・ 応募の際は、別紙「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」を使用して下さい。
- ・ 選考資料として、①候補者の論文や著書などの研究成果物、②研究内容の要旨、および③研究業績目録を必ず添付して下さい。なお、選考資料の返却のご要望には応じかねます。ただし、再度の応募に当たっては、著書に限り、以前に提出したもの（沖縄協会内の事務局に保管）を利用できますので、ご一報下さい。
- ・ 候補者の研究の分類（自然科学、人文科学、社会科学）を推薦者の方で示して下さい。二つ以上の分野を指示しても構いません。
- ・ 応募締切は9月30日ですが、郵送の場合は当日消印も有効とします。9月28日以降の郵送は速達をお願いいたします。
- ・ その他、推薦応募に関して疑問の点がございましたら、沖縄協会・沖縄研究奨励賞事務局（TEL 03-3580-0641～3）までお問い合わせ下さい。



中山章会員と時岡達志会員が「岡田賞」を受賞

中山 章（元新東京航空地方気象台長）会員は、航空気象技術向上並びに知識の普及に尽くした功績により、また時岡達志（気象研究所気候研究部第一研究室長）会員は、地球温暖化の科学的評価活動に国際貢献した功績により、「岡田賞」に選ばれ、贈呈式が5月24日に行われた。

「岡田賞」は、気象技術の向上に寄与または気象事業に貢献した人に対して贈られる賞で、はじめは財団法人岡田武松記念会の事業のひとつであったが、財政上の理由などで現在は日本気象協会が継承している。

（青木 孝）

お知らせ

気象研究ノート158号「酸性雨」は、品切れでご迷惑をおかけしてきました。この度、会員多数のご要望に応じて再発行しました。ご希望の方は、学会事務局まで早めにお申し込み下さい。

配布価格 通常会員：2,050円、会員外：2,950円
 なお、編集上の都合で気象研究ノート171号の発行が遅くなっていますが目下発行を急いでいます。お詫びかたがたお知らせ致します。



東京大学理学部地球惑星物理学科の発足について

東京大学理学部地球物理学科 (Geophysical Institute, University of Tokyo), および地球物理学研究施設 (Geophysics Research Laboratory) は、地球物理学の新しい展開に対応するために、1991年4月から改組され、統合した形で、新たに地球惑星物理学科 (Department of Earth and Planetary Physics) が発足した。

地球物理学科は1941年に、それまでの地震学科を引き継ぐ形で設立され、固体地球物理学・流体地球物理学・超高層物理学にわたる広範な分野の教育・研究にたずさわってきた。その後1964年に、同理学部内に地球物理学研究施設が設立され、超高層物理学に関する研究の中心は、この研究施設に移されたが、学部・大学院の教育に関しては両者が密接に連携してこれに従事してきた。しかし、最近における地球科学の拡大と変貌、惑星科学の新しい展開に対応して研究を行い、また惑星探査、人工衛星等による地球観測、大型数値モデルによるコンピューター実験のような今までなかった分野の人材を養成す

るためには、旧学科と旧施設が、より密接に連携をはかる必要があり、それがすなわち今回の改組の目的である。さしあたり、新学科は、旧学科の5講座と、旧施設の3部門が合併した形の8講座で出発することになる。しかし、発展しつつある地球惑星物理学分野の研究・教育に対応するためには、講座の増設をはじめとする一層の拡充が必要とされよう。諸方面からのご理解とご援助をお願いする次第である。

東京大学理学部地球惑星物理学科

〒113 東京都文京区弥生 2-11-16

固体・流体関係教官へのご連絡は

〒113 東京都文京区弥生 2-11-16

東京大学理学部地球惑星物理学科 EPS

超高層関係教官へのご連絡は

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部地球惑星物理学科 STP

東京大学気候システム研究センターの開設について

東京大学に気候システム研究センターが開設されました。当面、12月までは、下記の住所で、活動しています。全国共同利用施設なので、気軽にお立ち下さい。

住所 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1
東大理学部7号館地下015室

TEL. 03-3812-2111

ext. 2680, 4299, 2682, 2683

直通 03-5800-6840

FAX. 03-5800-6893

(住 明正)